

# 時に思うこと

同窓会会長 有田 和男 (31回)

\*はじめに・・・

遠い昔のことですが、甲陽の学び舎で教わった漢文に、莊子の“知北遊”であったか「人の天地の間に生くるは、白駒の隙を過ぐるが若く、忽然たるのみ」の詩句がありました。同期の仲間と共に、その甲子園の母校を巣立って、今や60年の歳月が過ぎ去ろうとしています。

まさに「歳月人を待たず」で、幾星霜もの時が流れたとは思えないのですが、あの時の仲間たちは、もうお互いに傘寿を迎えようとしています。

数年前に同期の仲間が相集い、あの敗戦を契機として吾々の生き方は勿論、社会の全ての価値観が激変した。その渦中で、吾々は心身ともに傷つきながらも、吹き荒ぶ疾風怒濤を乗り越え、仲間と共に逞しく耐え生き抜いた。その甲陽時代の厳しくも懐かしい思い出を、お互いの生ある間に吐露しあい、一つの「文集」に纏めたいと話しあった。それは自分たちの子や孫にも、自分たちが体験した過ぎにし人生の歩みを知って欲しいとの願いでもあった。

この文集「甲陽の思い出」は、ようやく小冊子(105頁)に纏まり、このほど発刊の運びとなり、待ち望む仲間の手許に届きました。「文集」を読むほどに、戦争末期から戦後の激動期を母校で過ごした数々の思い出、中学1年生での学徒勤労動員の重荷、B29の焼夷弾爆撃で仲間を失った悲しみ・グラマン戦闘機からの機銃掃射に狙われた恐怖の体験、学制改革の混乱に直面し仲間との別離、戦前の阪神間の風土に醸し出された自由闊達な校風、人間味溢れる恩師への感謝など、時代の混乱に翻弄されながらも、人間形成の芽を甲陽の学び舎が、暖かく培ってくれたことを実感させられました。また、あの滾った時代の語り部として、あの疾風怒濤を見事に乗り切ってきた母校の歴史を讃えたいものと思います。

\*同窓会費の改定について・・・

昨年の役員総会で決定され、1年の周知期間を経て、本年の4月1日から同窓会費(年会費を2,000円)の改定が実施されました。これにより新終身会費の金額設定も改定されました。

この周知期間の1年の間に、毎年の年会費納付から、特典が付与された新終身会費制度を活用された同窓生が増えました。この結果、昨年度の同窓会財政は収入増となり、一般会計から特別会計の新基本口座に800万円を積み立てることが出来ました。

然しながら、本年度の同窓会財政を見ますに、この年会費増額に伴う会費収入面の反動が必ず来るものと予測し、一層の経費節減策を厳しく講じさせていただきます。本年度の収入の推移は、同窓会財政の将来を左右しかねないと考えています。

\*会員総会について・・・

夏の会員総会は8月29日(土)に開催されます。第一部のゲストスピーカーに、関西で著名な一心寺の長老である高口恭行(40回生)さんをお招きします。高口さんは、豊かな学識経験は勿論、その博識多岐にわたるお話は、必ずや皆様の関心を引かれるものと期待しています。皆様のご出席を切望して止みません。

\*奨学金制度について・・・

この制度が本格的に発足して本年度で4年目となり、在校生へ給付を始めてから3年目を迎えました。拠金の額も4,000万円を超えました。本年度の目標として5,000万円を超える募金活動を目指しています。

一方、在校生への給付枠も6名から、緊急枠を含めて10名の枠を設けました。給付金額の増額も検討しましたが、今しばらくと見送りました。募金活動の今後の課題は、発足時から提起されてきました同窓会の法人化であろうと、その難問題に取り組みたいと考えています。

\*時に思うこと・・・

新聞やテレビでよく見聞きする言葉に、「100年に一度の世界的大不況」があります。この言葉を為政者は、何か免罪符を得たように、その行方施策の大きな理由付けに使っています。過去の实体经济を深く掘り下げたの反省もなく、将来への展望も示すことなく、社会保障の切り下げに見られるように、まるで弱肉強食の社会を作り出そうとしているとしか思えません。目線をもっと社会的弱者にと云いたいものです。

甲陽だより

発行所  
〒662-0096 西宮市角石町3-138  
甲陽学院同窓会  
発行人 有田和男  
印刷所  
株式会社 小西印刷所  
西宮市今津西浜町2番60号  
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用  
TEL 0798-71-4888  
(月・水・木 10:00~16:00)  
FAX 0798-71-4890  
E-mail :  
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp  
同窓会公式ホームページ  
<http://www.koyogakuin-oba.jp>

今すぐご予約を!

## 夏の恒例 会員総会

8月29日(土) 13時~16時半 於:ノホテル甲子園

— 詳細は16ページに —

学校だより

## 校長退任のご挨拶

前校長 石川義明



私がこの甲陽学院に赴任してまいりましたのは1989年、昭和から平成に変わった年でした。その年の6月15日に前会長辰馬吉男氏をご逝去され、中学校の体育館で合同葬儀が執り行われたことを鮮明に思い出します。それ以来20年間勤めさせてもらいました。私も昨年古希を迎え、もうそろそろ潮時かと判断いたしました。

ゲーテの詩に「時の流れは三様だ、ためらいながら近づく未来、矢のように過ぎ去る現在、じっと静かに佇む過去」というのがありますが、思えば、在職中はその時その時を私なりに一生懸命に過ごし、文字通り矢のように過ぎ去る日々でした。年齢を重ねた今、過去を辿れば記憶の大半は抜け落ち、おぼろげな記憶を重ね合わせてゆくと、しっかり美化した楽しい思い出があったり、赤面するような恥ずかしい思い出や数しれぬ苦しみや悲しみの出来事も、淡々と語れるようになりました。考えてみると、一つひとつの出来事には必ず何らかの意味があり、その全てが今の自分につながっているように思えるのです。形のない未来を自分の言葉で語れる過去にしてゆくことが、今を生きることなのかと思えるのです。

私は大学卒業以来40数年教職の仕事についてきましたが、その間七千人近くの教え子との出会いがありました。卒業してから一度も会わない人が多数いますが、日常の何気無い一コマ一コマが脳裏に刻まれていて、生徒達のことは案外覚えているものです。でも彼等の大半にはもう会えないのかと思うと無性に寂しくなります。しかし、嬉しいことには長く交流を続けている人達も沢山います。授業やクラブ活動、学校行事などで一人ひとりに一生懸命向き合ってきたつもりですが、どれほど彼等の心に響いたかわかりません。今、私は生まれ変わっても、やはり教師の仕事をしたと思っています。多くの若い人達と出会い、その心に触れ合いながら、人間として大きく成長してゆく過程に寄り添えるのは、何物にも代えがたい喜びだったからです。この甲陽学院で過ごした20年間のうち15年間、教頭、校長として過ごしましたが、それはそれなりにやりがいのある充実した日々でしたが、一介の教師として生徒たちに触れ合うことができなかつたのは、やはり残念なことでした。

同窓会の皆様方にもさまざまところで大変お世話になりました。特に、校長になってから前会長平田様、そして現在の会長有田様にはいろいろとご指導、ご鞭撻をいただきました。特に、甲陽ファンドの件に関しましては大変お世話になり、このような時世ですので

学校にとりましては大変ありがたく存じます。また、7月になると野球部のOBによる激励会に毎年お招きを受け、野球部OB会会長望月様、前野球部監督内海様をはじめ多くのOBの方々とも親しくでき大変嬉しく存じました。また阪神間の本学院出身の医師の方々の研修と懇親の場でもあります「甲陽会」にも参加させていただき、研修にもなりましたし、また親しく懇談させていただきましたことも、よき思い出となって残っています。

校長になって以来9年間、卒業を前にした高校3年生の20名ほどに毎年、「これから甲陽学院に入学しようとする諸君へ」という題で彼等の思うことを書いてもらいました。中には大変ユニークなものもありましたが、この九年間を通して、彼等の共通する思いは次の3つに集約されます。その1つは、「中学校ではいろいろ手取り足取り厳しく躡られたけど、高等学校では先生方に一人の大人として接してもらい、これほど自由な学校はそんなにないと思いました。それによって2年生も後半になると責任感も出てきたし、自分に箍(たが)をかけれるようになったと思います。」その2つ目は「ユニークで個性豊かで、学識のある先生が多数おられ、アカデミックな雰囲気のある学校でした。そして何よりも良かったのは普段は、それぞれ勝手気ままに振る舞っているながら、いざという時の集中力の高い人が多くいて、実に楽しい学校生活を送ることができ、そういった人達と一生涯の友達になれたことです。」3つ目は「もう一度、中学校・高校生活を送るのだったら、自分はやはり甲陽学院に来たい。そして、できれば自分の子供もここで学ばせたい」ということでした。ややお世辞もあり、くすぐったいところもありますが、概ね本音が出ているように思われます。自画自賛になりますが、このような学校で仕事をする機会に恵まれ、大変嬉しくまた誇りに思います。随分長いようで、過ぎ去ってしまうと短かった20年間でしたが、本学院の教育活動にご協力、ご支援を賜りましてありがとうございました。中学校も5クラスになり、中・高ともほぼ同じ規模になった甲陽学院が、ますます教育力を高め、さらに発展していくことを心から祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。



# 高等学校2008年度卒業式 学校長式辞

学校法人辰馬育英会甲陽学院高等学校第90回生の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご来賓、保護者の皆様、本日はご多用のところ、卒業式にご参列いただきまして、心からお礼申し上げます。

ただ今、200名の卒業生の名前が、各担任に読み上げられ、卒業証書を授与致しました。保護者の皆様方は、立派に成長した我が子をご覧になり、どんなにか感慨深く、また誇らしく思っておられることでしょうか。心よりお喜び申し上げます。

さて、昨年は北京オリンピックでの日本人の活躍や、ノーベル物理学賞や化学賞の複数受賞など、個性の輝いた明るいニュースがありました。一方で米国のサブプライムローンに端を発した金融危機がリーマン・ショックで表面化し、情報が瞬時に世界を駆け巡るようになって、世界同時不況に陥りました。誰もが同じ情報に対して、一斉にアクセルやブレーキを踏むため引き起こされた今回のドルの急落、自動車産業の総崩れ、原油や資源価格の乱高下など、情報通信の進化のスピードに、人間の決断力や判断力が追いつかず、世界的な金融システムが行き詰まってしまったのです。国内でも、企業業績が悪化し、「派遣切り」や「内定取り消し」など雇用不安が広がり、津波のように押し寄せてくる経済危機のまっただ中にある、環境問題や、食糧や水、エネルギー資源などのさまざまな課題がかすんでしまう年になってしまいました。

君達はこれからの厳しい時代に、あきらめず、逃げ出さずに現実と向きあってゆかなければなりません。ある会社の採用試験の面接で、「君はアリになれるか。トンボになれるか。そして、人間になれるか」と聞かれたそうです。「アリになれるか」というのは、地道にこつこつと泥まみれになって働けるかという意味です。「継続は力なり」といいますが、「努力を継続できる力」はその人の才能につながるのです。「トンボになれるか」というのは、複眼的な広い視野でものを見ることができるといえることです。複雑に絡み合っておこるさまざまな事柄を読み解くには、あらゆる角度から掘り下げて考えてゆかなければなりません。最後の「人間になれるか」というのは、血の通う温かい心を持った人間になれるか、ということです。相手の立場に立って考えるというやさしい思いやりの心を持ち合わせてこそ、人と人との信頼関係を築いてゆけるのです。

私は、四十数年教職の仕事についてきましたが、今、生まれ変わっても、やはり生徒と触れ合い、人間としてともに成長してゆける教師の仕事をやりたいと思っています。君達は今、いろいろな夢や希望、やりたいことを胸に描いていると思いますが、これから社会に出るまでに、将来の自分の進むべき方向を見いださなければなりません。それには、自分がどういう人間であるかということを理解し、磨きをかけ、自己を高める努力をしなければなりません。君達は、一人ひとりかけがえのない人間として、あらゆる可能性を秘めこの世に生まれてきました。家族の大きな愛情に生まれ、さまざまな環境の中で、いろいろな人達に支えられて、今、ここにいるのです。人は遅くとも二十代において、親の人生観や世界観と決別し、常に自分で考えながら何を選ぶのか、何を成すべきか、何をなすべきでないかを問い続けて、自分なりの価値観を持ち、自己を確立していかなければなりません。これから出会うであろういろいろなことに対して、自らの責任で決断を下し、自分の心に忠実に生きていってほしいのです。

これから卒業し、君達一人ひとり進む道は違っていますが、優れた能力の持ち主である君達は、それぞれの分野でトップレベルを維持し、日本や世界で活躍している人達の集まりです。君達の武器である、レベルの高い基礎学力を駆使して、コミュニケーション能力を高め、プロフェッショナルを目指してほしいのです。

私の希望を申しますと、学問を志し研究を重ね、世界を相手に堂々と日本をリードしていける人、また、目立たない地味な仕事に喜びを見だし、強い意志と努力で成し得た仕事が、結果として社会の役に立つような人、いかなる分野であろうと、少なくとも自分のいる場で、なくてはならない存在感のある人であってほしいと願っています。

君達の永い人生のうち、3年間あるいは6年間というわずかな期間ですが、人間としての基礎を創りあげていく大切な時期をすばらしい仲間たちと、この甲陽学院で過ごしてきました。今、この場に松尾貴裕君の姿を見ることができないのは、本当に残念でなりません。君達は、熱心な先生方の指導を受けながら、自由を満喫し、良い意味でのライバル意識を持ち、お互いに切磋琢磨した仲間たちがいるからこそ、甲陽学院だからこそ現在があるのです。「甲陽にきてよかった」とか、「個性的な人達に囲まれて、飽きることはない6年間だった」とか、親になった同窓生が「息子も甲陽に入れたい」という声を聞くにつけ、私は大変嬉しくまた誇りに思います。

私も70才を越えましたが、時折高校時代の校歌をふと口ずさんでいます。「信濃川 静かに流れよ」から始まって、「心をささげ 学びゆく 若き日うれし 旅心 思いは遙か 君が声 故郷にきく 山彦の ああこの学園の人々よ」で終わるのですが、特に私の気になっているところは、「心をささげ学びゆく 若き日うれし旅心」の部分です。若者が持つ、いや若者だけが持ち得る自分の夢を抱き、それを実現させるべく故郷を離れて、世界に向かって大きく羽ばたき、飛躍していくことを意味しています。私は歌いながら青春の日々を思い出し、少し元気が出てくるのです。君達もこの甲陽で、折りに触れて歌ってきた学院の歌「大地のほてり われらをつつむ 大地のいぶき われらにひびく 愛なり知恵なり 光なり 山に問えば 山は答う 海に問えば 海は答う 大空に大空に指もてえがく 希望のつばさ 甲陽 甲陽 甲陽学院」。これから君達が生きてゆく日々の中で、悩んだり落ち込んだりした時は、大空をあおいで学院歌を歌ってみてください。この甲陽学院での一コマ一コマが浮かんでくることでしょうか。体育祭の「三十人三十一脚」や「綱引き」のチームワークの戦い、「リレー競争」や「ザ相撲」で戦う力強さ、競技ごとに沸き上がる歓声、音展の「合唱コンクール」で創りあげたクラスのハーモニー、四階から眺める風景、甲陽学院のそこそこ、それらは君達の心のふるさとではないでしょうか。君達の青春を過ごしたこの甲陽学院を、心のふるさととして、誇りをもって思い出してもらえればと、卒業記念のアルバムに「心のふるさと」と記しておきました。

混迷の21世紀を生きてゆく君達が、自分の大きな仕事を成し終え、人生を振り返った時に、豊かな思いに満たされるであろうことを心から願っています。

これをもちまして式辞といたします。

2009年2月10日  
校長 石川義明

学校だより

# 校長就任のご挨拶

校長 山下正昭



創立92周年を迎えた伝統ある甲陽学院の第10代校長として、学院の発展を図るといふ重責を担うこととなりました。過去36年間は教頭時代も含め、数学の授業を通じて生徒たちとの交流を図ってまいりました。なんと言いましても、授業が甲陽学院の最大の商品です。

教科面での授業内容も然る事ながら、授業担当者の一挙手一投足が生徒達に与える影響は非常に大きいものがあります。それだけにやり甲斐のある仕事でした。しかし、これからは来るべき次の百年に向けての舵取りに邁進したいと考えています。そのためにも、自らを高め、職責にふさわしい能力の向上に努めたいと思っています。

ところで、今に始まったことではないのですが、毎年3月になりますと週刊誌が「〇〇大学合格ランキング」というような記事を掲載し、学校評価をしてくれています。これは非常にわかりやすく、説得力のある評価方法です。当事者としてしましてはランキングが上に出ればうれしく思い、下に出れば暗い気分になってしまいます。しかし、大学合格者数だけが甲陽学院を評価する基準であってはならないと考えています。もちろんこれも一つの大事な基準です。数がでなければ論外であると思います。しかし、もう一つ別の評価基準があるように思います。それは卒業生の皆様方の社会にお

ける活躍振りではないでしょうか。甲陽学院の教育方針は「気品高く教養豊かな有為の人材を育成することを目的とする」ということです。この教育方針がどのような形で実を結んでいるのかを評価基準にするべきであると思っています。とは言え、皆様方のご活躍の様子は、学校ではほとんど把握できていません。まして生徒達は知る由もありません。その意味もあって「同窓生講演会」には大変感謝しています。講演会に出席した生徒達の中から後継者が生まれるかもしれません。いや必ず生まれると信じます。お忙しい事とは存じますが、この企画がいつまでも継続できますようご協力をお願いいたします。

随分前のことですが、本学院第7代校長の小河清磨先生が会議の席で「甲陽はただの進学校ではない」と言われました。小河先生の真意はわかりませんが、「大学に合格さえさせればいいというような学校ではない」というお気持ちもあったのではないだろうかと思っています。これは先ほどの「卒業生の皆様方の社会における活躍ぶり」に相通じるものであると思います。

甲陽学院も時代とともに少しずつ変化してきていますが、根元の部分は確実に継承されているものと思っています。石川前校長時代の種々の取り組みをさらに発展させることによって、新しい伝統と言えるものが生まれてくるものと思います。

最後になってしまいましたが、同窓会奨学金には希望者が多く、感謝しています。

今後ともよろしくお願いいたします。



中学校入学式

## はじめての校外行事

春の風が心地よい4月、中学校では校外学習が行われ、入学したばかりの1年生207名（当日欠席2名）と引率団11名はグリーンピア三木を訪ねました。その中には山下校長のお姿もありました。

最初に行われたオリエンテーリングでは、まだ出会って間もない友達との班行動に慣れずに表情の硬い者もいましたが、園内は広い芝生広場、サイクリングやコースター等の様々なアトラクションがあり、生徒諸君の笑顔が弾けるのにそう長い時間はかかりませんでした。昼食では山下校長の周りに自然と人の輪ができ、共にお弁当を広げたり、様々な質問を投げかけたりする生徒たちの姿がありました。写真はその1コマで、和やかな雰囲気が伝わってきます。

昼食の後にも話に花が咲いたようで、山下校長の優しい語り口や生徒への温かい眼差しが印象的な春のひとときでした。



## 妙島前教頭が副校長に就任

従来の高等学校教頭という職名が変更され、今年度から副校長という職名になりました。その職には中学校前教頭の妙島秋男先生が就任されました。また中学校教頭の後任には、93回生の学年主任をされていた大川貴史先生が就任されました。

## お世話になりました

1993年から16年間、社会科教諭として主に歴史を担当された寺田俊夫先生が今春退職されました。

2003年から6年間、講師として数学を担当された小野喜士先生が今春退職されました。

2004年から5年間、講師として英語を担当されたSean Thomas Quinn先生が今春退職されました。

## 中学校2009年度入学式 学校長式辞

208名の新入生の皆さん、保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。ここに学校法人辰馬育英会甲陽学院中学校第1学年の生徒としての生活が始まりました。君たちは今まで、説明会や音楽と展覧の会など何度か、本学院を訪れたことがあるでしょう。しかしその時は「お客様」としてであったのです。今日からは君たちが主役の、君たちの学校です。人としての基盤を築いてゆく大切な思春期、青年期の六年間をこの恵まれた環境の中で、過ごすこととなります。自分の学校であるという自覚を持って登校してきてください。

君たちは一人一人かけがえのない存在としてこの世に生を受け、今まで家族の大きな愛情に生まれながら、いろいろな人達に支えられて成長してきました。そしてどちらかという、親の考えのもとに育てられてきました。しかしこれからは、自ら考えて決断し、自ら行動し、しっかりと親離れをしてゆかなければなりません。今日の喜びを忘れず、今日の喜びをしのぐもっと大きな喜びを多数作り上げてもらいたいと思っています。

ここで本学院の歴史を話しておきます。

現在の辰馬育英会甲陽学院中学校・高等学校というのは大正九年創立の財団法人辰馬学院甲陽中学校に始まりますが、その源泉は大正六年、教育学者の伊賀駒吉郎先生が「息のつまるような公立学校にはない、自由な私学を作ろう」とのお考えのもと現在の甲子園の地に設立された「私立甲陽中学」にまでさかのぼることができます。伊賀先生は、「青年期は人生無二の修養期なり」ではじまる「甲陽十二訓」という戒めを残されています。この甲陽中学の経営を、辰馬本家十三代当主の辰馬吉左衛門氏が引き継がれ、「人材の育成こそ、国家百年の大計なり」という趣旨のもと私財を投じて財団法人辰馬学院を創立されました。その後、学制改革等によって、今日の名称に変わったのは昭和二十五年のことです。このように学校の名称は変化してまいりましたが、根本になる考え方は「気品高く教養豊かな人材を育成する」ということであり、「明朗・澗淵・無邪気」の校風は設立当初から変わることなく受け継がれて今年92周年を迎え、卒業生も1万7千名余りとなり、様々な分野において地球規模で活躍されています。

こうした伝統を継承していくために皆さんに次の3点をお願いしておきます。

まず1つ目は、自ら考え、自らの行動に責任を持ち、勉強を中心としたリズムを早く確立するということです。本学院で生活していくためのペースを、試行錯誤しながらこの1年間でつかんでください。この時期に身につけた勉強のスタイルが一生継続くといっても過言ではないと思っています。山肌を流れる水は、くぼ地に出会うとまずそのくぼ地を満たします。その後、再び流れ始めます。くぼ地を飛び越えて流れることも出来なければ、迂回することも出来ません。勉強でもスポーツでも、一步一步順を追って、手抜きをせずに進

んでいかなければなりません。また、山裾で水が流れてくるのを待っている人にとっては、水の流れが止まっているのを観て、どこかで怠けているのではないかと思うこともあるでしょう。しかし状況を正しく把握すると、「怠け」ではなく、「充電期間」であるということに気づくこともあると思います。

2つ目は、この甲陽学院の入学試験までに示した君たちの素晴らしい集中力、エネルギーを大切に持ち続けることです。勉強は当然のこととして、クラブ活動や読書などやりたいことにチャレンジして生き生きとした若者らしいパワーある生活をしてください。そのためには具体的な目標を立てることが必要になります。具体的でなければ弱いものになってしまいます。「週に一冊の割合で本を読む」という目標なら、検証ができます。しかし、単に「たくさん本を読む」という目標では、実行できたかどうか検証が出来ません。検証が出来なければ、反省も修正も出来ません。出来る限り具体的な目標をたてることが大切です。

3つ目は、今日の新たな出会いを大切に、人間として相手の気持ちがわかり、気がつき、心づかいのできる人になってください。そして、お互いに支え、支えられる一生涯の良き友を得てください。そのために大切なことは、「卑怯なふるまいを決してしない」ということです。卑怯なふるまいは、人望をなくし、友をなくする、自分自身を辱める行為です。これは在学中だけのことではなく、一生涯守ってほしいことです。いずれ音楽の時間に習うでしょうが、本学院には昭和五年に作られた「応援歌」があります。この応援歌の中に「正々堂々甲陽健児」という一節があります。私は此の一節が特に好きです。この応援歌を作詞されたのは、当時本学院で国語を担当されていた「山田在夫先生」、作曲は「山田耕作氏」です。当時から、「卑怯なふるまい」をいましめていたのだと思っています。

最後になりましたが、保護者の皆様方をお願いしておきたいことがあります。

中学・高校の六年間は、心身ともに大きく成長し、自我を確立していく大切な時期です。「親離れ」と言うのは、子供が親から少しずつ精神的に離れて、自立への道を歩み始める過程を表わしています。親が子供に何も教えないということではありません。むしろ、人生の先輩として親が、社会の常識や自分の価値観、人生観を明確に示すことのほうが、子供の自立を促すことにつながります。こういう時期にいる子供は、精神的にも不安定な状況にあるわけですから、今までとは違った意味での親の愛情が大切になってきます。たとえ子供が反抗しても、基本的に教えなければならぬことはきちんと示し、同時に子どもを温かく見守る支援をしていただきたいと思います。

これをもちまして、2009年度入学式式辞といたします。

2009年 4月 7日

校長 山下正昭

## 第14回 リレー随筆

## 新制甲陽中

## 創設のころ

鈴木 博信 (34回)

戦後教育改革の一環として六三制が発足したことともなあって、1947年(昭和22年)新制甲陽中学校が旧甲陽工專の跡地に創設された。1回生として入学を許されたわたしたちをまっていたのは、淡黄色の瓦で葺いた白壁の、「校舎」とはとてもおもえない瀟洒な平屋建ての館だった。

正門をとび出して松林をかけぬけるとすぐそこに砂浜がひろがり、陽光を浴びてゆったりと武庫の海が波打っていた。

下校時は夙川の、桜並木でふちどられた側道や河原のとび石づたいに、あるいは桜吹雪をあびながら、あるいは新緑にむせながら、アリストテレスがアテネに開いた学塾リュケイオンの一角にとくにもうけさせた並木の散歩道——のことはあとにふれる吉田先生から入学早々におそわった——に想いを馳せつつ、時空を超えて豆「逍遙派」と化すひとときに恵まれるのだった。

立って引っぱられているときに足の筋肉から出る信号がわたしたちの意識の水準を大いに高めてくれ、頭の働きにはこの上なくよい、というのが進展いちじるしい大脳生理学の教えてくれるところと聞く。弟子たちと並木道を歩きながら学問を論じるのをこのんだアリストテレスが「逍遙学派」といわれるゆえんだが、まさに理にかなった方法だったことになる。

小学生時代の集団疎開先だった兵庫県宍粟郡の寒村では総勢10数人の仲間の内2人を赤痢で失った。実家も米軍の爆撃で焼けおちて、中学校には一家8人が8畳部屋に間借りしている三田市の知合いのお宅から通っていた。そんなわたしにとって、回想のなかの香爐園の学舎は、大げさでなく「天国に近い」別天地といえた。兄が旧制甲陽に通っていたのにならただけで格別深い考えもなく甲陽にやってきた少年にとって、それはただ夢見心地の3年間だった。

入学発表のときに親しくなった、夙川在住の名家の出身であるHくんはちがっていた。今も鮮明な記憶を語ってくれる。お祖父様が旧制の甲南中学・高校の創立にかかわられたこともあって一族そろって甲南族であったにもかかわらず、Hくんが一家の伝統を押し甲陽に進学したのは、聞けばひとえに学院創立者、辰馬吉左衛門翁の令息で当時辰馬本家酒造14代目の当主だった吉男さんを中心とする辰馬家の人々が新制甲陽の発足にかけた熱情によるものだった。辰馬家の血族の一人で辰馬汽船の社長をしておられた山県勝見さん(のちに厚生大臣)がHくんの在学していた夙川小学校にこられ、「新制甲陽中に来りて新生日本を担う若き紳士たれ!新しい酒は新しい皮袋に盛らねばならない」と熱弁をふるわれたのに心燃やされ、5人の学友とともに甲陽をえらんだというのである。

新生中学が誕生にさいして手本のひとつにしたのは、英国を担う人材源となってきたイートン、ハロウなどのパブリック・スクールであつたらしい。記憶力のいいHくんによると、入学当初から折にふれて「きみたちは紳士である」と聞かされ実際に紳士として扱われ(たとえば英語の芥川潤先生は紳士たるものが不正行為をするはずはないという信頼感のもとに監督者をおかない「オーナー・システム」(honour system)で試験を実施された)「紳士であれ!」と

命令口調の指示をうけることはおろか、上意下達的な「先生と生徒」という関係を感じたことすら絶えてなく、どの先生に接しても先生というよりは芯から研究好き勉強好きの先達ないし年長の兄者人にふれるおもいに終始した稀有の場だった、とHくんは回想している。

パブリック・スクールの何たるかを日本にはじめてくわしく紹介した好著としていまもよみつかれている『自由と規律』(岩波新書)の出版が1948年のことだから、新制甲陽はそれより1年早く「日本のイートンたらん」として出版したわけである。この旗を掲げたのは、初代の校長に招かれたもと神戸経済大学(現神戸大学経済学部)学長の丸谷喜市さんをはじめ辰馬吉男さん、その恩師にあたる芥川先生(のちに2代目校長。先生も関学大英文科教授の椅子をなげ打って投じてこられた。ちなみにNHKのラジオ英語講座はJOBKからはじまった。先生はその美しく格調高い発音の魅力で初代の講師をつとめ、放送史にも名をのこしておられる)といった方々だったようである。

そういえば中学1年生ではじめて英語にふれたとき、最初のうちは「万国音標文字」を芥川先生からひたすら教わった。1時間の進度はせいぜい2~3個で、それぞれの音に対応する鼻から口腔・のどにいたる顔面横切り図が黒板に描かれると、これをノートに写しとったうえで、先生の発音——それはじつに美しかった——にあわせてくりかえし音を出すのである。教科書をとりあげてアルファベットにふれるまでに、すくなくとも3ヵ月近く経ったはずだ。外国語のよみ書きの助けになるフリガナをなにはともあれ叩きこんでもらったことになる。

ことばはまず音であり、しらべであることを手とり足とり伝えてくださった恩師はすでに世を去られたが、このフリガナ徹底教育法は辞書をひらくときの精神衛生にも大いに余徳があった。フリガナやあやふやなままスタートしていたなら、見出しの横の発音記号が目に入るごとに、足のうらに飯粒をつけて歩いているような違和感につきまといわれていたにちがいないのである。

芥川先生も高校に進んでおふれした半沢儀三郎先生も、ともに朗読・暗誦に力を入れ、かつひんぱんに書き取りをおやりになった。日本を代表する英語の達人・国弘正雄さんは、道元のいう只管打座にならって「只管朗読」、つまり気に行った文章をひたすらよみ上げることをもって純日本人むけ外国語勉強法の「この一手」としておられる。芥川、半沢の恩師ともそれぞれにぬきんでた只管朗読派であられたわけである。

ところで創立者2代目の辰馬吉男さんは、新制甲陽中の発足にさいしておもい切った人事を断行されたと聞く。すなわち旧制甲陽中学の教員グループからは旧制高校の教授も優につとめうる資格・品格の方々のみをのこすとともに、丸谷新校長と2人で手分けして京大や阪大等々を歴訪し大学院レベルの若き俊英をリクルートしてまわられたのである。

こうして京大大学院からこられたのが数学の小河清磨さん(のちに4代目の校長)、関西汽船社長の御曹司で国文学

の神田郁夫さんといった方々だ。私の心にとりわけふかぶかと刻みついている、そしておなじ若手組の先生がたが競って切磋琢磨なさる原動力にもなられたのが、二松学舎大出身でありながら京大<sup>おもだか</sup>国文学部の沢瀉教授がとくにつよく推挽されたと聞く吉田謙一先生である。

白<sup>ましろ</sup>皙の美青年であられた先生がさっそうと登壇されると、美しい筆跡で黒板に書いていかれるのが白秋の「からまつ林」であり西田幾太郎の「善の研究」の一節であり、はたまたロダンのことばやルナールの「にんじん」と、じつにリッチでヴァラエティにとんだ素材だった。これをあえてプリントにせずノートにかき写させることで、わたしたちの手許にはまたとない手づくりの「詞華集」がのこっていたのである。

あこがれの先生は、しかし翌年の夏期休暇があけたときにはおやめになっていた。「夏休み果ててそのまま／かえり来ぬ／若き英語の教師もありき」と、テキストのひとつだった啄木歌集の一節にあるそのままだった…。まもなく丸谷校長ご自身も学び舎を去られる。啄木の親友ですぐれた歌人「緑野」でもあられた身としてみずから作詞され、3年間折にふれてわたしたちの愛唱するところとなった中学校校歌「われら」をわたしたちの許にのこして。

曲は、戦後関西で初演となった歌劇カルメンのホセ役を演じられた、東京芸大出身の「われらのテナー」、音楽担任の花輪洋先生がおつけになった。

かぎりなき ときのながれのがよえる／このひととき  
をあいみる われら／ともにいゆかむ ともにいゆかむ

きわみなき そらにしてここさみどりの／さやけきにわ  
につどえる われら／ともにいゆかむ ともにいゆかむ

#### [著者紹介]

現在、桃山学院大学名誉教授。東大教養学科フランス分科をへてNHK記者。アフリカ移動特派員ののち、サイゴン(現ホーチミン)特派員としてベトナム戦取材中、風土病で腎・肺を障害し、以後13年の療養生活のあと教員に転身。桃山学院大学、関西学院大学に出講(国際政治、ロシア政治)。この間、サンクト・ペテルブルク大学歴史学部国際関係学科客員研究員、ハーバード大学ロシア・ユーラシア研究センター客員研究員。著書に「アフリカ」(NHK出版)「超大国の不思議な関係——日本の条件

⑤」(共著、NHK出版)「自壊するアメリカ」(共著、ちくま新書)など。訳書にE.H.カー「ナポレオンからスターリンへ」(岩波書店)、ウラム(膨脹と共存—ソヴェト外交史)(サイマル出版会、1979年度日本翻訳出版文化省)など多数。



## 学校だより 創立記念音楽会 スーパーリコーダーカルテット リサイタル

4月29日13時30分、山下学校長が開演の挨拶をされ、恒例の創立記念音楽会が母校の講堂で始まりました。颯爽と登場した4人組がいきなり演奏し始めたラテン曲「南京豆売り」は、この日の天気のようにさわやかで、来場されたすべての方々に幸福な午後のひとときを約束するかのようでした。

今年お招きしたのは、日本を代表するリコーダー奏者である藤田隆、北村正彦、秋山滋、松浦孝成の4氏からなるユニットで、プロフィールによると、主宰されている藤田氏の「還暦」を記念して結成されたそうです。この日の音楽会では、素敵なリコーダーの世界を満喫できたのは言うまでもなく、さらに素晴らしかったのは、演奏の合間に藤田氏の分かりやすい解説があったり、各氏の特技を特別に披露していただいたりしたことで、ちょっ



とした「リコーダー通」になれたかなという満足感を得られたことです。

2曲目の「セレンガーラウンド」は、初期の様式でジョイントのないルネッサンスリコーダーによって演奏され、一味違った柔らかな深みのある響きを楽しむことができました。

様々な種類のリコーダーが紹介されました。ソプラノよりさらに高音のソプラニーノを紹介される際に、昔この楽器が小鳥に曲を教えるのに使われたことがあり、それが「覚えさせる」＝「記録する」という意味のリコーダーの名前の由来だというお話がありました。確かに小鳥のさえずりを連想させる美しい音色でした。また、最も低音のコントラバスには、箱を組み合わせた形のものがあり、弦楽器のコントラバスに負けないほどの存在感を示していました。

一人で2本のリコーダーを同時に吹かれたり、爪楊枝のように小さいミニチュアリコーダーを演奏されたりといった楽しい演出もありました。また、休憩時間には、様々な珍しい楽器を間近かで見ようと、多くの来場者が舞台前に集まっていました。

アンコール曲の「ピンクパンサー」、「くるみ割り人形トレマック」を含め、全10曲の演奏が終わるまで、この音楽会会場には何かふだんの生活とは違う不思議な時間が流れていたように感じました。

## 第15回 リレー随筆

## 懐古から期待へ

西岡 正義 (35回)

## はじめに

甲陽学院高等学校を卒業してから半世紀以上が過ぎ去り、私は今年5月で74歳になりました。

高等学校卒業後、同志社大学文学部英文学科を卒業して、大阪市立汎愛高等学校に英語科教員として赴任し、定年まで一貫して同校で勤務しました。定年1年前に、同志社大学大学院に入学して、働きながら修士課程を修了し、定年退職直後に、介護福祉士と保育士を養成する大阪総合福祉専門学校の副校長に招かれました。

その後、平成14年にこの専門学校が大阪健康福祉短期大学に発展したので、副学長・教授として現在まで勤務しています。

## 甲陽学院で受けた教育

長い教員生活に入った原点は、昭和23年に入学した甲陽学院中等部（後に中学校）で受けた教育にあります。

まだ戦後の混乱が収まっていない頃でしたが、香櫨園海岸近くにあった校舎で、入学直後に受けた芥川潤先生による英語の授業が、私にとっては新鮮で衝撃的なものでした。先生の口の形をよく見て真似をしながら、時間をかけて英語の発音訓練を受け、発音記号をノートに写しながら教わりました。教科書を開いたのは、かなり後になってからだったと記憶しています。当時は、英語教師になることなど夢にも思っていませんでしたが、今から考えると、先生の授業が私の将来を決定する大きな要因になった、と言っても過言ではありません。

他に印象に残っている授業は、東正雄先生による生物です。蛙や蛇の解剖にショックを受けたこともありましたが、夏休みには、箕面の山へカタツムリ採集に行きましたが、先生は採集してきたカタツムリを解剖して、新種を見つけるたびに、それを採集してきた生徒の名前に因み、「〇〇マイマイ」と命名して学会に届出られていたようです。

後に画家として有名になられた、須田剋太先生の美術の授業も忘れられません。クロッキーで私の顔を描いてくださったのですが、デフォルメされていたので私は気に入らず、破棄してしまったことが今では悔やまれます。

中勘助『銀の匙』、国木田独歩『武蔵野』、吉田兼好『徒然草』などの岩波文庫を使った国語の授業は、多感な少年たちを読書の世界に誘う、刺激的な授業だったと記憶しています。

しかし、なんと言っても中学・高校を通じて、長年クラス担任をしていただいた村上千秋先生の薫陶が、私たちの人格形成にも多大な影響を与えたことは否定できません。昨年他界されたことが、ほんとうに残念でなりません。

昭和26年に、甲子園にあった高等学校に入学しましたが、それまで占領軍によって禁止されていた柔道、剣道などの国技が、体育の授業に取り入れられるようになりました。それまで「手引き」であった文部省の学習指導要領が改訂されて、「拘束力」を持つようになり、私学といえどもこれに縛られるようになったからでしょう。このあたりの最近の事情は、校長の石川義明先生が「新学習指導要領のねらいと本学院の現状」と題して、「甲陽だより」第67号に投稿

し説明されています。

戦後間もない、まだ物質的には不遇の時代でしたが、私たちが受けた甲陽学院中学校の教育は、自由を求める時代の風を受けて、各先生が自分の専門性を存分に生かしながら、かなり独創的な教育を実践されていたと記憶しています。型にとらわれない、素晴らしい教育を受けることができた幸せを、今も感謝せずにはいられません。

高等学校では硬式野球部に所属して、放課後、練習に励みました。学校が阪神間にある地の利のお蔭で、夏の全国高等学校野球大会の予選でも、憧れの甲子園球場や西宮球場を使って試合ができたことは、私の青春時代の忘れられない思い出になっています。

## 公立高校の教壇に立つて

初めて教壇に立つと、自分が体験した授業を手本にしがちなものです。赴任した公立高校で初めて英語の授業を終えた時、生徒全員がポカーンとした表情で私の顔を見つめていました。「どうしたの？」ときくと、「先生の授業はテンポが早すぎるし、言葉が難しすぎてついていけません」と言われて、<ハット>気づきました-<そうだ、ここは甲陽学院ではないのだ！>と…。

それ以来、どのような生徒、学生が相手でも、理解度に応じたわかる授業を展開するために、職場の先輩と相談したりサークル活動に参加したりして、研鑽することを心がけてきました。

小学校教員の妻と結婚し、3人の子どもたちを、幼い頃には保育所に預けて共働きを続けましたが、乳幼児が発達する様子を、保育士との対話を通じて知ることができたことは、私にとってたいへん役立つ学びになりました。子どもを育ちを、乳幼児期から青年期まで見通して考えることの大切さを、父親と高校教師の体験から学べることは、真の教育とは何かを考える上でも、たいへん役立ったと思います。

昭和29年に甲陽学院高等学校を卒業した私たちは、がむしゃらに働き通した世代ですが、その体験から言えば、現在の閉塞した社会状況の中で、若者たちにどのような将来展望をあたえることができるのかが、今、教育に問われている緊急課題ではないでしょうか。甲陽学院の教育が、このような課題にどう答えるのか、期待しつつ見守っていくつもりです。

## 【略歴】

(姓 名)	西岡 正義 (にしおか まさよし)
(生年月日)	昭和10年5月25日生 (74歳)
(出身地)	神戸市
(現住所)	大阪府高槻市松が丘2-43-15
(学 歴)	昭和29年3月 甲陽学院高等学校卒業 その後 同志社大学文学部英文学科卒業 同志社大学大学院総合政策科学研究科総合政策科学専攻修士課程を修了
(学 位)	修士 (政策科学) (同志社大学)
(職 歴)	昭和38年4月～平成7年3月 大阪市立汎愛高等学校教諭として定年まで勤務 平成7年4月～平成14年3月 大阪総合福祉専門学校 副校長として勤務 平成14年4月～現在に至る 大阪健康福祉短期大学 副学長・教授として勤務





# 会 務 報 告

平成20年度の会務につきまして、平成21年 4 月27日に開催されました役員総会の議事内容にしたがってご報告いたします。

## 1 各委員会活動について

### a. 会報編集委員会

第78号を平成20年 7 月15日付で発行。紙面は巻頭言・新役員一覧・ファンド関係・学校だより(退職の先生方、中学校新食堂、中学校校外学習、創立記念音楽会、高校体育祭)・リレー随筆・同窓会費改訂のお知らせ・会員総会案内などでした。

第79号を平成21年 3 月 5 日付で発行。紙面は巻頭言・会務報告・学校だより(甲関戦、クラブ活動、同窓生講演会)・ファンド関係・リレー随筆・恩師の訃報・会員だよりなどでした。

### b. 会員総会運営委員会

平成20年 8 月23日(土)の午後 2 時半から 6 時まで、ノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。今回は「これからの社会を考え、カントリーウエスタンに酔う」と題して、ゲストスピーカーに検事総長の樋渡利秋氏(45回)をお招きし、また、第 2 部には母校を定年退職されたばかりの静先生率いるフルハウスの皆様にカントリーウエスタンの演奏をお願いしました。

会全体をNHKアナウンサー真下貴氏(69回)がプロの技で進行していただき、ホームカミングデーの39回、54回、64回の皆さんの紹介などもあって、なごやかに夏の土曜の昼下がりをおすごすことができました。

当日の参加者は約260名でした。

### c. 甲陽ファンド管理委員会

本格的にファンド委員会が発足してから 4 年目、在校生への支給を始めてから 3 年目を迎えます。

在校生へは、今年度各学年 1 名と緊急採用 1 名の合計 7 名に奨学金を給付しています。1 名につき年間で20万円です。

これまでに集まった醸金は約 4 千万円です。

### d. 会務運営委員会

最新の会員名簿は平成15年に発行されたものです。次回(2023年)の会員名簿の発行について、個人情報保護や発行経費の観点から議論をしました。結論的には、創立95周年を迎える平成24年の発行を目指す方向で 4 月の役員総会に諮ることになりました。

## 2 平成20年度決算報告について

当年度の決算については、次頁に掲載の決算書が報告され、監事からの監査報告を受けて、承認されました。

## 3 平成21年度の活動方針と予算について

平成21年度の活動方針として、次の各項が承認されました。次に、その予算として次頁の予算書が承認されました。

### a. 会報編集委員会

第80号 平成21年 7 月発行

第81号 平成22年 2 月発行

### b. 会員総会運営委員会

8 月29日(土) 午後 1 時～ 4 時30分

於：ノボテル甲子園

第 1 部 講演 高口恭行氏(40回) 一心寺長老

### c. 甲陽ファンド管理委員会

40回生が委員長となり募金活動を継続

(募金総額50,000千円を目標とする)

在校生への支給については、各学年 1 名のほか緊急採用枠を 4 名までとし、合計10名までとする。

### d. 会員名簿編纂についての方針

創立95周年にあたる平成24年を目指して会員名簿発刊への準備を進める。

### e. 理事・評議員の空白の補充に努める。

### f. 地域甲陽会の活動、および同窓会ゴルフなど同好会的活動を支援する。

終身会費納付額設定表(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

90回～84回	30,000円	70回	37,000円	56回	23,000円
83回	50,000円	69回	36,000円	55回	22,000円
82回	49,000円	68回	35,000円	54回	21,000円
81回	48,000円	67回	34,000円	53回	20,000円
80回	47,000円	66回	33,000円	52回	19,000円
79回	46,000円	65回	32,000円	51回	18,000円
78回	45,000円	64回	31,000円	50回	17,000円
77回	44,000円	63回	30,000円	49回	16,000円
76回	43,000円	62回	29,000円	48回	15,000円
75回	42,000円	61回	28,000円	47回	14,000円
74回	41,000円	60回	27,000円	46回	13,000円
73回	40,000円	59回	26,000円	45回	12,000円
72回	39,000円	58回	25,000円	44回	11,000円
71回	38,000円	57回	24,000円	43回～	10,000円

\*平成22年度以降は、この設定表を1年分ずつスライドさせていく。

# 卒業生と母校、在校生を結ぶ絆 奨学金ファンドにご協力を！

甲陽学院同窓会奨学金は、同窓生の皆様のご支援を得て、平成18年度から奨学生への給付を始めました。各学年1名の定期採用奨学生に緊急採用奨学生を加えて、平成18年度には6名、平成19年度には6名、平成20年度には7名の在校生にそれぞれ奨学金年額20万円を支給いたしました。

近年在校生をとりまく経済環境は決して良好とばかりは言えません。昨年来の不況による影響はもちろんのこと、家族の病気、両親の離別、養育費の滞納などにより、学業の継続が困難になる場合も珍しくありません。昨年度は、高校で10名の生徒が同窓会以外の奨学金を受給しました。

平成19年度には、高校卒業を前にして授業料の納付が困難となり、急遽同窓会奨学金の緊急採用を受けて無事卒業できたというケースがありました。

我々の同窓会奨学金は、母校と在校生にとって大変有意義なものとなっているのです。また近ごろの社会情勢をふまえ、今年度からは緊急採用の枠を拡大して、

年間最大10名までの奨学生を採用することにいたしました。

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が急務です。ファンドの運用益から奨学金を給付するために資金1億円を目標としてきましたが、当面の目標として、今年度末までに醸金総額5000万円を達成することを掲げました。今年5月末現在の醸金総額は約4340万円です。皆様のご協力をぜひお願い申し上げます。

1口1万円からで、口数には上限はございません。リピーターも大歓迎です。一度ならず「甲陽だより」が届く度に醸金していただいている方もいらっしゃいます。まことにありがとうございます。

母校甲陽学院には、保護者、卒業生からの寄付を募らないという誇り高い方針があります。奨学金ファンドは同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

## ● 平成20年度 決算報告書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科目	決算額	予算額	差引額	科目	決算額	予算額	差引額
会費	14,601,000	8,800,000	5,801,000	人件費	2,113,400	2,136,000	△22,600
年会費	1,711,000	1,300,000	411,000	月手当	1,536,000	1,536,000	0
終身会費	8,055,000	2,500,000	5,555,000	夏冬手当	320,000	320,000	0
新卒入会金	1,200,000	600,000	600,000	通勤費	257,400	280,000	△22,600
新卒年会費	2,800,000	1,400,000	1,400,000	交通費	0	200,000	△200,000
新卒終身会費	835,000	3,000,000	△2,165,000	需要費	789,517	1,000,000	△210,483
				通信費	411,792	500,000	△88,208
会報広告料	60,000	60,000	0	事務消耗品費	44,245	50,000	△5,755
総会会費収入	1,197,550	1,200,000	△2,450	備品費	0	50,000	△50,000
利子収入	47,206	20,000	27,206	IT関係費	333,480	400,000	△66,520
ストラップ収入	52,800	0	52,800	会議費	2,553,276	2,800,000	△246,724
雑収入	20,950	0	20,950	会員総会費	1,693,808	1,500,000	193,808
寄付金	10,500	0	10,500	役員総会費	210,823	250,000	△39,177
				理事会費	113,022	250,000	△136,978
収入合計	15,990,006	10,080,000	5,910,006	委員会費	374,435	600,000	△225,565
特別積立金繰入	0	0	0	懇談会費	161,188	200,000	△38,812
基本金解約				事業費	3,466,712	3,540,000	△73,288
繰越金	13,956,911	13,956,911	0	甲陽だより	856,537	1,000,000	△143,463
				郵送料	1,554,635	1,500,000	54,635
合計	29,946,917	24,036,911	5,910,006	振替用紙	135,560	120,000	15,560
				封筒	186,160	120,000	66,160
				記念品	613,820	600,000	13,820
				母校後援費	120,000	200,000	△80,000
				雑費	310,492	300,000	10,492
				校内志	40,000	40,000	0
				慶弔その他	129,412	100,000	29,412
				振替料	128,350	100,000	28,350
				その他雑経費	12,730	60,000	△47,270
				支出合計	9,233,397	9,976,000	△742,603
				特別積立金繰入	10,500	15,000	△4,500
				新基本金繰入	8,000,000	8,000,000	0
				予備費	0	6,045,911	△6,045,911
				支出総計	17,243,897	24,036,911	△6,793,014
				収入総計	29,946,917		
				支出総計	17,243,897		
				翌年繰越金	12,703,020		
◎H21年3月末日現在 現預金残高明細							
*三井住友銀行(普通預金) 8,602,896円							
*郵便局(普通預金) 314,722円							
* // (振替通知票) 5,437,973円							
*三菱信託銀行(普通預金) 1,277,937円							
*手持現金 181,652円							
合計 15,815,180円							
甲陽F預かり金 3,112,160円							
甲陽ファンド通帳へ 円							
合計 12,703,020円							
◎H20年度 収入件数の合計と、累計							
科目	件数	累計					
寄付金	2件						
年会費	601件						
終身会費	326件						
新卒終身会費	33件						
広告費	2件						
雑収入	3件						
総会収入	116件						
ストラップ	44件						

(単位：円)

## ● 平成21年度 予算書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科目	H21年度	H20年度決算	H20年度予算	科目	H21年度	H20年度決算	H20年度予算
会費	8,400,000	14,601,000	8,800,000	人件費	2,136,000	2,113,400	2,136,000
年会費	1,000,000	1,711,000	1,300,000	月手当	1,536,000	1,536,000	1,536,000
終身会費	1,400,000	8,055,000	2,500,000	夏冬手当	320,000	320,000	320,000
新卒入会金	1,200,000	1,200,000	600,000	通勤費	280,000	257,400	280,000
新卒年会費	2,800,000	2,800,000	1,400,000	交通費	100,000	0	200,000
新卒終身会費	2,000,000	835,000	3,000,000	需要費	1,080,000	789,517	1,000,000
				通信費	500,000	411,792	500,000
会報広告料	60,000	60,000	60,000	事務消耗品費	50,000	44,245	50,000
総会会費収入	1,500,000	1,197,550	1,200,000	備品費	180,000	0	50,000
利子収入	40,000	47,206	20,000	IT関係費	350,000	333,480	400,000
ストラップ収入	0	52,800	0	会議費	2,600,000	2,553,276	2,800,000
雑収入	0	20,950	0	会員総会費	1,500,000	1,693,808	1,500,000
寄付金	0	10,500	0	役員総会費	250,000	210,823	250,000
				理事会費	200,000	113,022	250,000
収入合計	10,000,000	15,990,006	10,080,000	委員会費	450,000	374,435	600,000
特別積立金繰入	0	0	0	懇談会費	200,000	161,188	200,000
基本金解約	0	0	0	事業費	3,640,000	3,466,712	3,540,000
繰越金	12,703,020	13,956,911	13,956,911	甲陽だより	900,000	856,537	1,000,000
				郵送料	1,600,000	1,554,635	1,500,000
収入総計	22,703,020	29,946,917	24,036,911	振替用紙	140,000	135,560	120,000
				封筒	200,000	186,160	120,000
				記念品	600,000	613,820	600,000
				母校後援費	200,000	120,000	200,000
				雑費	290,000	310,492	300,000
				校内志	40,000	40,000	40,000
				慶弔その他	100,000	129,412	100,000
				振替料	100,000	128,350	100,000
				その他雑経費	50,000	12,730	60,000
				支出合計	9,846,000	9,233,397	9,976,000
				特別積立金繰入	10,500	10,500	15,000
				甲陽F預かり金繰入	0	0	0
				新基本金繰入	0	8,000,000	8,000,000
				予備費	12,846,520	0	6,045,911
				支出総計	22,703,020	17,243,897	24,036,911

(単位：円)

# 甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成21年1月1日以降5月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成20年12月31日以前に醸金された方は73号～79号に掲載しております。)

13回	吉田 利雄	38回	松林 輝芳	49回	長島 久明	64回	岡原 正周
17回	宮本 茂	38回	三木 則夫	51回	梅原 一彦	66回	岡田 篤哉
20回	沖野 秀雄	39回	中川 宏一	52回	土居 章展	69回	大津 雅亮
20回	川島 茂	40回	網野 信行	53回	片岡 良友	70回	齋藤 秀夫
21回	赤松 隆雄	40回	飯田 浩	54回	小金井 彰	71回	安福 伸光
23回	磯野 孝市	40回	岩谷 龍	54回	中島 祥好	71回	藤井 健弘
24回	織部 成一	40回	金井 孝憲	54回	中野 茂	72回	小西 洋平
24回	勝部 寛二	40回	河崎孝太郎	55回	桜井 太郎	72回	藤野 純一
24回	綿谷幸次良	40回	栗野 紘幸	56回	佐野 隆夫	72回	光本 宏司
25回	五十嵐喜芳	40回	小松 啓七	57回	白尾 誠二	74回	徳岡 俊治
25回	松原 市郎	40回	小味渕智雄	58回	伊藤 彰	75回	辛島 理人
27回	光野 昭	40回	斎藤 芳秀	58回	田中 史朗	75回	木村 尚史
28回	勝部重一郎	40回	篠田 勝郎	59回	柴田 良平	77回	長久 功
29回	小西 博夫	40回	杉浦 哲雄	59回	島本 佳憲	78回	高木 浩二
31回	鈴木 登	40回	中川 徹	60回	喜安 洋三	90回	吉村 貴大
33回	池上 吉藏	40回	中山 達世	61回	松井 充	工専1	太田 唯男
33回	森下 哲志	40回	西田 信夫	61回	山崎 晃男	工専1	藤田 勝美
33回	若田雄太郎	40回	長谷川啓治	62回	吉岡 泰彦		
34回	横内 昭	40回	原 弘道				
35回	尾山 啓二	40回	藤川 雄平				
35回	国領 薫	40回	鮎 智則				
35回	吉田 龍二	42回	浜田 雅義				
36回	稲松 登	44回	志方 英三				
36回	福田 達	44回	中田 靖雄				
37回	岡本 重一	45回	岡本 定行				
37回	十河 尚	45回	金子 俊六				
38回	江寄健一郎	45回	小林 智夫				
38回	高寺 美慈	48回	藤木 祥平				
38回	平野 雅士	49回	大山 文男				

## 平成21年度 甲陽ファンド管理委員会

委員長	金井 孝憲 (40回)		
委員	江寄健一郎 (38回)	泥 光重 (39回)	
	松村 光雄 (39回)	篠田 勝郎 (40回)	
	平島 徳治 (41回)	大野 忠雄 (42回)	
	花木 繁 (42回)	平井 真一 (43回)	
	渡邊 功 (43回)	中野 忠夫 (44回)	
執行部	有田 和男 (31回)	中村 貞三 (35回)	
事務局	今西 昭 (57回)	箱田 光信 (57回)	

### 【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
  - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2)の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。



## 五十嵐喜芳コンサートを聴く

酒井 新介(22回)

5月1日18:30兵庫県立芸術文化センター小ホールにほぼ満席の聴衆を迎え、五十嵐喜芳(テノール)及び五十嵐麻利江(司会・ソプラノ)、春木浩子(ハープ)、中村均(ピアノ)のコンサートが始まりました。

父娘の軽妙なトークのやり取りを交えて、私達がよく耳にする日本と西欧の歌を、お二人が卓越した歌唱力で歌われ、ピアノとハープの素晴らしい伴奏とあいまって至福の2時間でした。特に傘寿とは思わせぬ貫祿のテノールに、殆ど同年齢の私は羨望、賛美、感動で胸が一杯になりました。明瞭な言葉、発声、感情表現、高度な歌唱技巧に彩られた、いやーもう完璧な演奏でした。

1977年5月3日新校舎へ移転の前年、甲子園旧校舎の講堂で、また1990年8月4日南御堂会館の旅行社のイベントで、関西ではめったに聴けない氏の独唱を楽しませてもらったことも思い起こしておりました。

会は終始和やかな雰囲気で行われ、～皆で一緒に歌いましょう～の部で最後の「故郷」が終わったあと、五十嵐さんの「私の故郷はなんと言っても関西です。これからもよろしくお願いします」という閉会の言葉が印象的でした。



左から中村均、五十嵐麻利江、春木浩子、五十嵐喜芳の各氏

## 告 知 板

### ☆ 同窓生の近著ご紹介 ☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などをご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よろしく願いいたします。

小笠英志 (67回) 『異次元への扉』

～はさみと紙から始めてトポロジーの達人に～  
(日本評論社)

### ☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

\*次号・第81号は、来年2月末頃に発行を予定しています。

\*「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。

\*原稿の締切日は、来年1月10日です。

### ☆ 「ノボテル甲子園」の優待券 ☆

甲陽学院同窓会会員用に「宿泊15%割引」「レストラン&バー10%割引」の優待券を発行していただいています。2010年12月30日までの優待券が事務局にございますので、ご希望の方は、お手数ですが、事務局までお電話・FAX・Eメールにてご請求ください。

### ☆ 甲陽史学会 例会 ☆

8月29日(土)午前10時～12時 ノボテル・会議室で青木政幸(辰馬考古資料館)「高井梯三郎先生 最晩年の未定稿をまとめて」(仮題)

同窓会会員のご参加を歓迎致します。

参加希望者は、FAX0798-47-8574(橋本)またはE-mail:hasimoto@keiho-u.ac.jpまでご連絡願います。参加費(会場費・資料代)は当日に実費徴収します。

なお『辰馬考古資料館 考古学研究紀要』第6号(近刊)に遺稿を掲載しました。

### ☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

\*会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。

\*その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。

\*各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

訃報

(平成21年 5月 31日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

Table of deceased members with names, dates, and ages. Includes names like 小山 昭次氏, 花房 秀三郎氏, etc.



お知らせ

音展は9月20日(日)

例年9月23日に実施されていた高等学校の音楽と展覧の会(音展)を、今年は休日の関係で9月20日(日)に実施することになりました。多数の皆様のご来場をお待ちしております。

Table of deceased members with names, dates, and ages. Includes names like 八木 清次氏, 黒岩 洋一郎氏, etc.



■あて名ラベルの記号の見方

既に年会費をお納めの方や終身会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振り込み用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成21年 5月 31日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度

Table showing membership status: 卒 1 1 1 | 1 1 1 0 0 | 終

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…17年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

Table explaining symbols: 1 (paid), 0 (not paid), 卒 (graduate), 終 (lifetime member), etc.

従いまして、下段に含まれる0の個数 × 年会費が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

★H元年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。次の二つの例をご参照下さい。

Table example 1: 卒 1 1 | 1 1 1 1 0 | 0 0 0 0 0

H10以降は未納です。未納分をお納め下さい。

H15年分まで納付

Table example 2: 卒 卒 卒 卒 卒 | 卒 1 1 | 1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H15年度まで納付しておられます。

③尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。

# 会員だより



## 第4回 同窓会ゴルフ

第4回同窓会ゴルフは4月11日(土)、桜満開、快晴の芦屋CCで18名の参加者を得て行われました。最長老は米寿を迎えられ益々お元気な富田幸三郎氏(18回)、最若手は優勝者の喜安洋三氏(60回)、プービー賞は吉井友美氏(54回)、ベストグロスは初参加の石川前校長でした。同氏は今までは土曜日に授業などがあり参加出来なかったそうですが退任された今後は平田前会長の好敵手として本会の常連になられることでしょう。又中村貞三氏(35回)は退院直後であるにも拘わらず



元気に飛び入り参加され不死身振りを見せ付けられました。プレー後の懇親会では旧制甲陽中

学校や校歌、応援歌などの滅多に聞けない思い出話や今年の会員総会の基調講演者である一心寺長老の高口恭行氏(40回)の秀逸な語りぶり(乞う御期待)で盛り上がりました。本ゴルフ会は同窓生の結束を図る数少ない同窓会行事の一つですが、今回はご案内が遅かったこと、ゴルフシーズンの幕開けで日程的に合わないことなどの理由で参加者が少なく残念でした。今秋の第5回ゴルフ会は10月18日(日)伊東武氏(45回)が支配人を務める武庫の台ゴルフクラブで行われます。是非皆様お誘いあわせの上ご参加下さるよう期待しております。参加ご希望の方は下記次回幹事の何れかにご連絡下さい。(申し込み締切日 9月30日)

- |           |         |                            |
|-----------|---------|----------------------------|
| 吉井友美(54回) | 携帯      | 090-2385-1976              |
|           | Eメール    | yoshii517@hcc6.bai.ne.jp   |
| 喜安洋三(60回) | 電話      | 06-6832-7655               |
|           | 携帯メール   | kiyasu.youzou@docomo.ne.jp |
| 金山二生(32回) | Tel&Fax | 078-411-1432               |
| 中村貞三(35回) | Tel&Fax | 072-777-1009               |
|           | Eメール    | teisan@d4.dion.ne.jp       |

## 24回 橘友会

春風駘蕩と言うよりも、初夏を想わせる陽気で快晴の4月7日、阪神間組の織部、近久、中島、綿谷、馬場の5君と南方の6人で、2月9日(美々卯)に次いで、今年2回目の昼食会を「がんこ宝塚苑」で行いました。お互いの健康に改めて感謝の念を深くしての会合、いつもの様に甲陽時代の思い出話や近況談等とっても賑やかで楽しく有意義な一刻を過しました。

その後、美しく変った「花の道」を花見がてらに散策、丁度満開の桜並木をはじめ、百花繚乱の見事さに思わず感嘆の声も上り、記念撮影後、宝塚南口迄行き、宝塚ホテル喫茶室で一時間余尽きせぬ歓談に時が移りました。

去年から我が橘友会も上記の様な食事会に変わり、回数を多くする様になりましたが、ご参加ご希望の級友の方は、織部君、近久君、南方の内、誰かにご連絡頂ければ、大歓迎です。次回は「秋(9~10月頃)の予定、(日時、場所未定)」として居ります。

(南方 記)



## 25回 天文会 (S20年卒 橘組)

平成21年4月19日(日)晴れの午後、阪急グランドホテル28階「司」にて、午後1時30分より、大芦君の乾杯にて参加者7名で、各自の近況報告をし、飲み食い歓談をして楽しい約2時間を過ごし、来年の再会を約して散会しました。

平成22年度は、大芦万久君のご努力によって、どこかで、4月20日に開催出来るとおもっております。

出席者は下記の7名です。

- 前列左より  
大芦、新美、浅香、村上(誠)、波々伯部、村上(宗)  
後列 押目  
(大芦、波々伯部 記)



## 35回 B組有志の集い

昨秋の村上千秋先生の「お別れの会」以来、有志8名が5月24日の日曜日、大阪駅前「ニュートーキョー」で初夏の宵の一刻を過ごした。

新型インフルエンザ騒ぎに「体調に自信がない」とキャンセルされた方は居られたが、めげない面々が東京から山崎君が来阪されたのを機にジョッキを傾けた。

お酒をこよなく愛された村上先生の憶い出話に始まり、あちこちに話題の広がる相変わらずの談論風発に2時間ばかり、賑やかに歓談した。

東京では毎月14日に35回生が集まっているので、都合があえば参加していただきたい とのこと。

大阪では不定期だが、機会あれば集まることとなろう。

- 出席者は、  
山崎、三木、中村(貞)、鈴木、塩谷、角田、泉、阿部の諸君だった。

(塩谷 記)



原稿は出来る限り4000字詰原稿用紙一枚以内にして下さい。原則として原稿(写真)は返却いたしませんので御了承下さい。

**36回 甲陽36回生 同窓会**

日 時：平成21年 5月14日 (木) 16:00~21:00  
 場 所：JR芦屋 ホテル竹園 3階コスモスと 9階スカイバー  
 出席者：鮎貝盛和、石原正紀、稲松 登、浦野宗保\*  
 大野 進、岡居真恭、金子直道、小村英吉  
 酒井洋一郎\*、杉野修三、角野敏二、但井浩二  
 中川博二\*、西村善明\*、原 謙三、原納 優  
 平井 肇、舟越辰緒、北条幸造\*、星野 彰\*  
 松浦一雄\*、丸野貞彦、光永三郎、矢田 忠  
 吉田耕一\* (25名参加、\*印はゴルフ会も参加)  
 幹 事：北条幸造、松浦一雄  
 世話人：中川博二さん  
 (翌日の芦屋カンツリー倶楽部ゴルフ段取り)  
 物故者：昨年 7月、石川県在住の星野 中さんが、海水浴  
 中に、急逝されました。  
 全員で黙祷。故人のご冥福をお祈りしました。

36回生は、甲陽中学に入学以来、今年で60年を迎えます。我々同窓生は、それぞれ、半世紀以上に亘るお付き合いだと思つと、今更ながら、感慨深いものがあります。

今回は、総数88名(含幹事)にご案内。76名の方から回答があつて、最終的に25名の方の出席となりました。

70歳を超えると、体調の不良や、家族の方の病気などのため、出席できない人も増え、残念なことです。

当日の懇親会は、遠くからの方でも、日帰りが出来る様、開始時間を早め、更に、今までと、趣向を変え、立食方式として、全員が、自由に動き回つて、四方山話が出る様にしました。また、出席者の年齢も考え、会場内に、出席者数を上回る座席を用意しましたが、この同窓会に出席のため帰国したアメリカ在住の浦野宗保さんや、40年ぶりに横浜から出席の金子直道さん等も加わり、夫々、思い思いに集まつて、話題が盛り上がるにつれ、皆さん、話に夢中になり、全員が立ったままで、座っている人は、皆無になっておりました。

瞬く間に、終わった懇親会(3時間)と2次会(2時間)でしたが、来年は、更に多くの方々のご出席を、期待します。次回幹事は、角野敏二さん、原納 優さん、平井 肇さんの3名。ゴルフのお世話、中川博二さんです。(北条、松浦)

**39回 小野彰司君叙勲祝賀会**

タイ・バンコックに居住の小野彰司君が大阪に帰つてこられたチャンスをつかまえて平成20年秋の叙勲を祝つての祝賀会を開催しました。5月24日(日)は大安吉日でノボテル甲子園ではウェディング姿が目立ちました。

日 時：平成21年 5月24日(日) 14:00~17:00

場 所：ノボテル甲子園 千歳の間

参加者：宮本 茂先生、中島 博先生、

同窓生18名(関西在住16名、関東在住の永滝君、石川県在住の大西君)

**1. 平成20年秋の叙勲について**

小野彰司君は、長年に亘るバンコックの日本人会のまとめ役、会長としての仕事が高く評価され、旭日小綬章を受章されました。旭日章は、国家または公共に対し功労がある者の内、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者に対して授与されるものです。

**2. 宮本先生の米寿のお祝いについて**

遅ればせながらこの機会を通じて皆さんに米寿を迎えられたことを発表させてもらいました。小野君とあわせておめでたいことが並びました。(泥光重 記)

**40回 Let's get together at KOSHIEN for the 50th ANNIVERSARY**

‘光陰矢の如し’速いですね！卒業して半世紀が経ちました。8月29日(土)の同窓会員総会では「ホームcomingデー」として我々40回生が特別に壇上に登りお祝いを頂くことになっております。総会の中締め後には別室にて改めて我々同期生だけで祝杯を交わす計画です。

また、総会では我々の同窓、高口恭行長老が説法ならぬ極めて気軽なお話をして頂く予定。是非にも懐かしい顔をお見せ頂き、当時の青春を謳歌した丸坊主頭時代に還り、互いにアンチエイジ効果を高めましょう。

(長谷川啓治 記)

夏の会員総会

# 「一心寺で考えたこと」—高口恭行長老を迎えて—

8月29日(土) 13時~16時30分 於:ノホテル甲子園

今年度の会員総会は下のような要領にて開催いたします。同窓の友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。ご家族同伴も歓迎です。

## ■第1部 式典と講演会

演題 「一心寺で考えたこと」  
講師 高口恭行氏(40回)  
一心寺長老  
造家建築研究所主宰 工学博士



高口氏は、昭和15年京都生まれ。28年甲陽学院中学入学、34年高校卒業し京都大学工学部入学。38年同大学建築学科卒業、大学院修士・博士課程を経て京都大学助手、49年工学博士。50年奈良女子大学住環境デザイン学助教授に就任、62年同大学教授。平成4年退職。この間昭和47年一心寺住職に就任、55年造家建築研究所を開設。平成16年一心寺住職を退任し長老に就任して現在に至っております。

都市の生活空間に対する評論やユニークな提言、景観や町づくり問題への造詣の深さ、そして実行力で知られ、文楽で知られる植村文楽軒など、多くの文人や芸人にゆかりの夕陽丘の伝統文化を再現しようとスタートした「なにわ人形芝居フェスティバル」は今や夕陽丘の春の風物詩となっています。

また、舞台芸術振興のため寺の講堂である三千佛堂の

地下に「一心寺シアター倶楽」を開設、毎月、上方芸能はもちろん、コンサートやミュージカルなど多彩な演目が催されています。

建築作品は、大阪市の歴史の散歩道計画、仁王門(写真)など一心寺の諸建築、奈良市はじめ地方公共団体の公的住宅、寺院や個人の住宅など多数。平成15年日本建築家協会「関西建築家大賞」を受賞されました。



## ■第2部 懇親会

卒業後50年の40回生、卒業後35年の55回生、卒業後25年の65回生の皆さんは、今回ホームカミングデーです。ささやかですが記念品を用意しておりますので、ふるってご参加下さい。

司会は、今年もNHKアナウンサー真下 貴氏(69回)です。なお、当日会場では母校校章入りのストラップを1200円にて販売いたします。

### information

日時 平成21年8月29日(土)  
第1部 13時~14時45分  
第2部 15時~16時30分

会場 ノホテル甲子園(旧甲子園都ホテル)  
TEL 0798-48-1111

会費 一般会員 5500円(当日会費)  
学生会員 2000円(当日会費)  
同伴家族 2000円(当日会費)  
新卒者(平成21年3月卒) 無料

※母校への問合せはご遠慮下さい。

申込方法 同封の振込用紙で、8月19日(水)までに会費をお振込み下さい。あるいは8月24日(月)までに事務局まで参加のご予約を下さい(葉書、電話、FAX、Eメール)。この場合は特別割引として、**一般会員5000円、学生会員・同伴家族は1500円**とさせていただきます。

問合せ先 甲陽学院同窓会事務局  
〒662-0096 西宮市角石町3-138  
TEL 0798-71-4888(月・水・木・金) 10時~16時  
(8月12日~19日は母校夏期閉鎖期間につき不在)  
FAX 0798-71-4890  
Eメール fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

☆当日の料理・名札等の準備がありますので、できるだけ事前振込かご予約をお願いいたします。

☆まだまだ暑い折ですので、当日はカジュアルな服装でご参加いただいで結構です。

☆平成15年の役員総会の決議により、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。

上記の会費にて運営いたしたく、よろしくご了承下さいますようお願い申し上げます。

Superbly located for business or pleasure.

[www.novotelkoshien.com](http://www.novotelkoshien.com)




西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111

ノホテル甲子園

ACCOR ▶ A worldwide leader in hotels, tourism and services